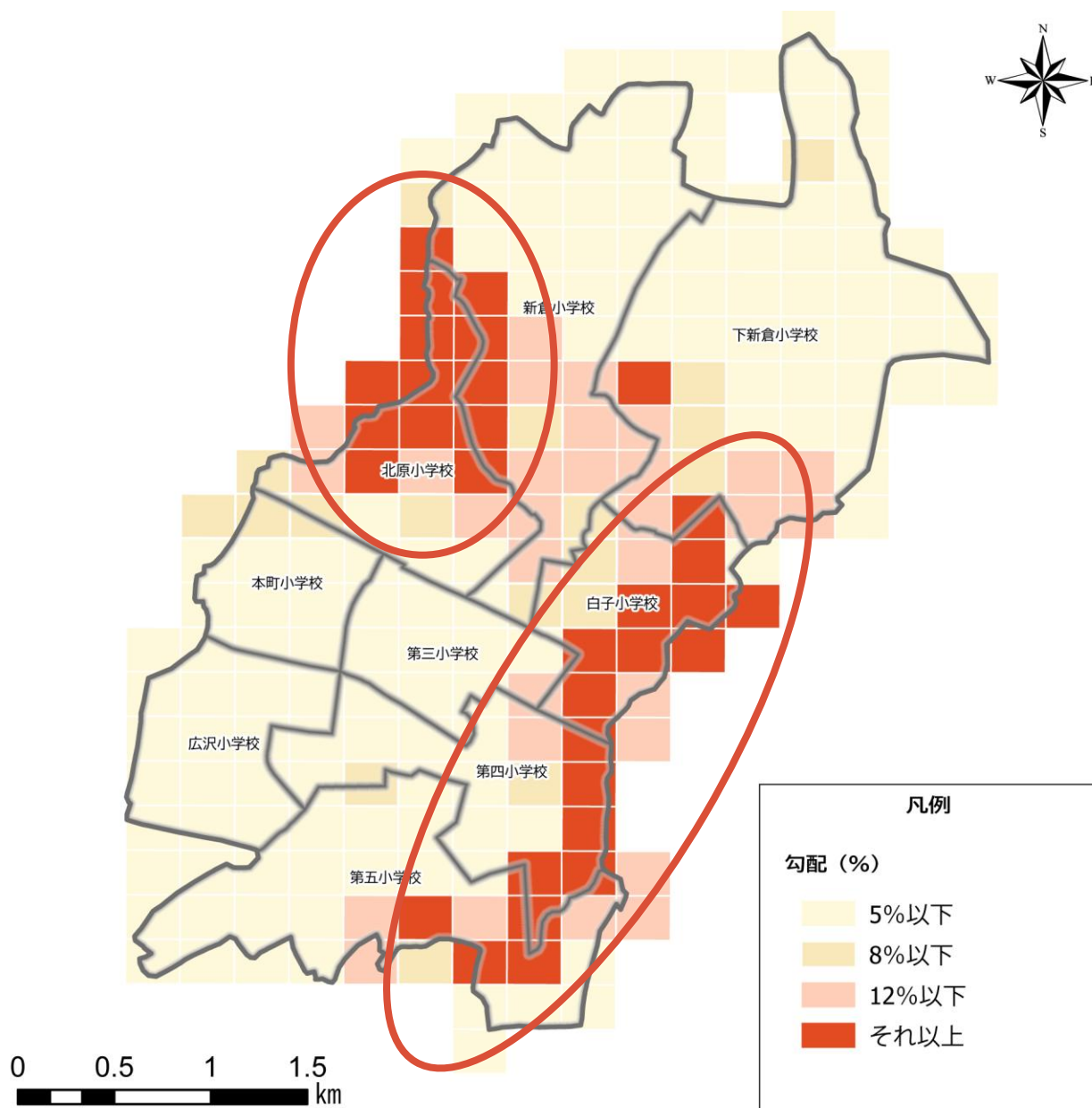




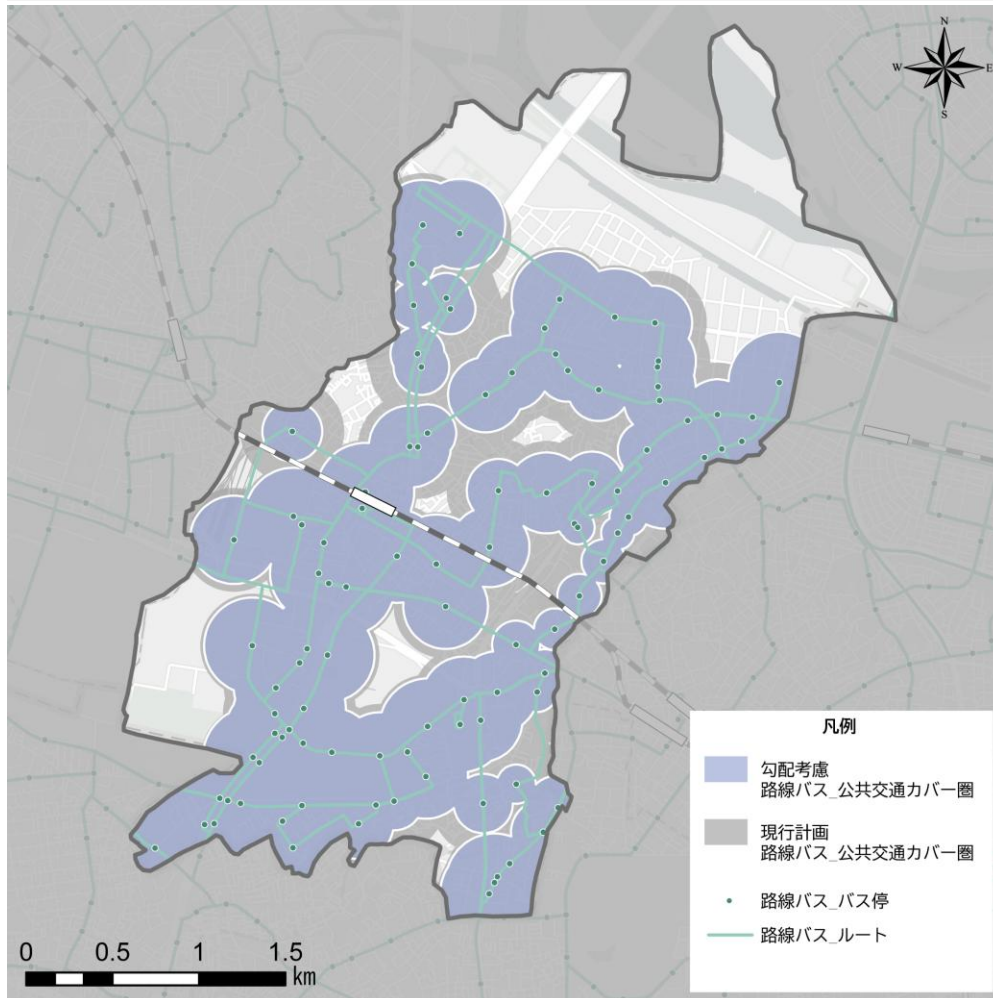
- 白子小学校区の東側、下新倉小学校区、北原小学校区、第四・第五小学校区の南部などで、急勾配箇所が分布している。
- 勾配8%を超える区域は市の東側南側に集中し、西側の本町・広沢・第三小学校区は概ね5%以下のなだらかな地形となっている。
- 勾配の大きい地域では、徒歩でのバス停へのアクセス負担が大きくなりやすく、次ページ以降の「勾配を考慮した利用圏」算出の前提となっている。

※勾配値は、各区間における「最大傾斜」を表示しており、区間全体の平均的な勾配を示すものではない。

勾配を考慮した利用圏

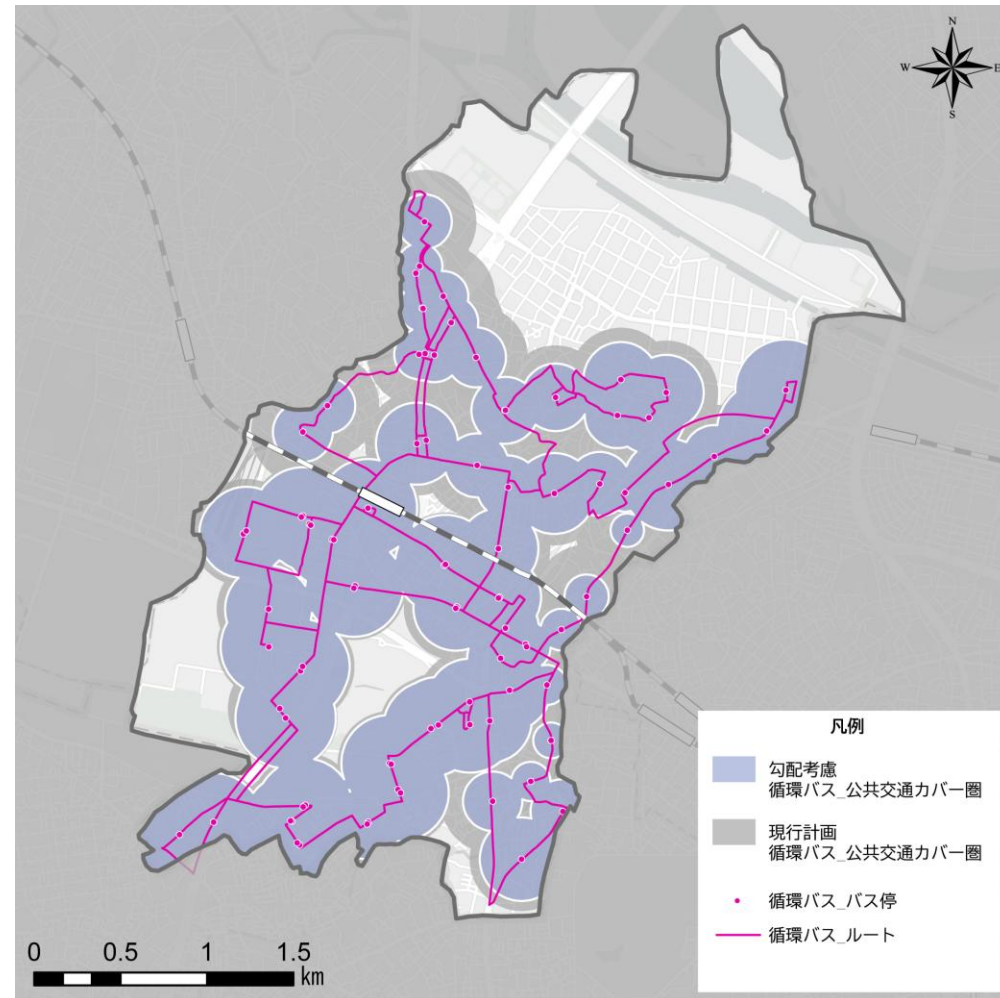
路線バスの利用圏

- 勾配考慮エリア（青）は現行計画エリア（グレー）よりもやや縮小し、坂の多い東側で圏域が狭まる傾向。

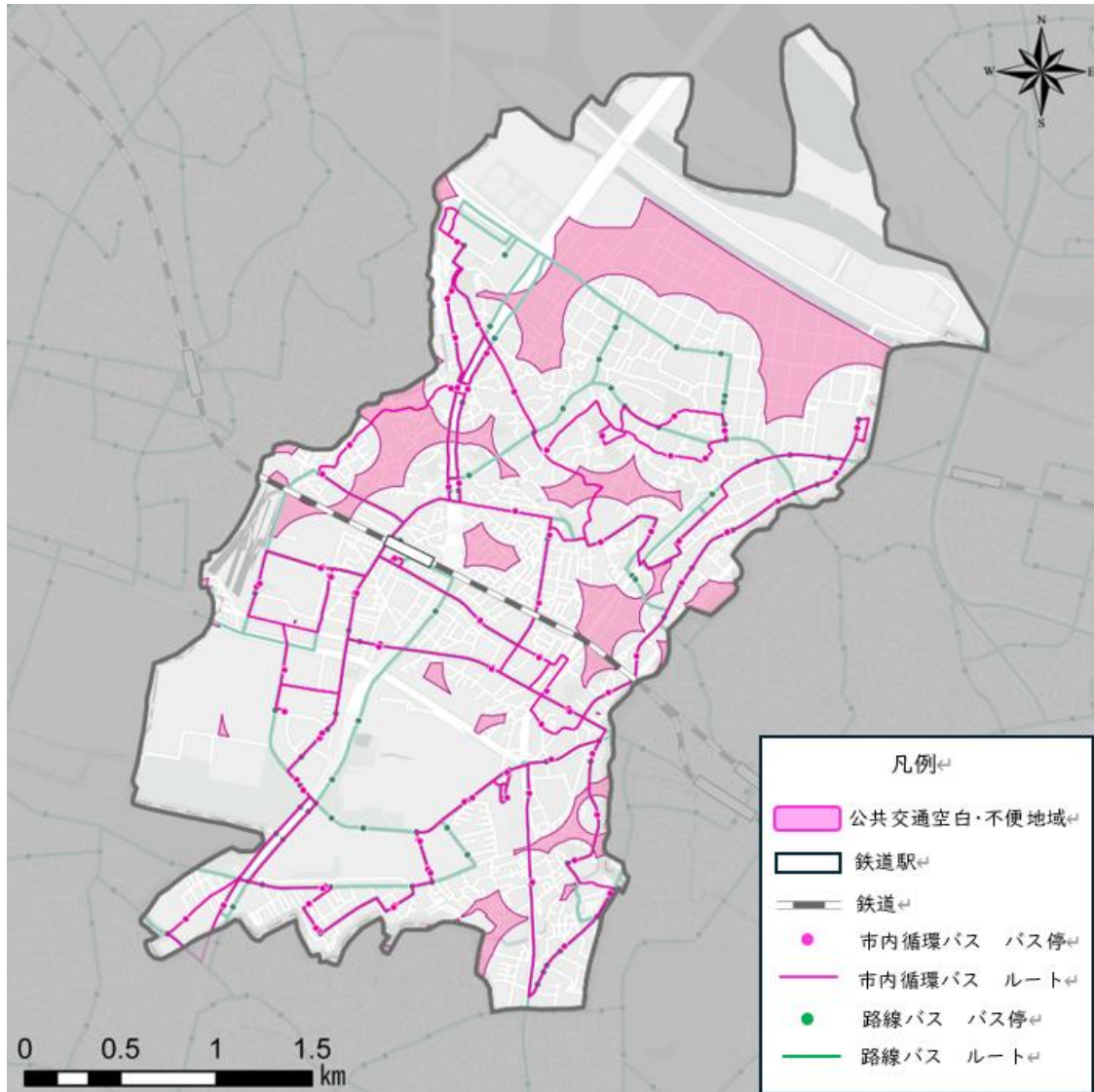


循環バスの利用圏

- 循環バスも同様に、白子・新倉方面など急勾配の地域を中心にカバー圏が縮小する傾向がみられる。



勾配考慮後の空白地域



- 路線バス・循環バスを重ね合わせると、勾配を考慮しても市域の大部分は公共交通カバー圏内に収まっている。
- 一方、白子小学校区東側や第五小学校区南部など急勾配が連続するエリアは、現行計画上はカバー圏内であっても、実際の徒歩負担を踏まえると利用しづらい可能性がある。
- こうしたエリアは、循環バスの再編や、タクシーチケット事業の拡充、新たな交通モードの検討において、優先的に着目すべき地域と考えられる。